

ユニット型特別養護老人ホームの実態調査について

独立行政法人福祉医療機構

福祉貸付部

はじめに

本報告書は、平成21年度独立行政法人福祉医療機構の融資制度を利用し、ユニット型特別養護老人ホームを整備した社会福祉法人を対象に実態調査を行い、回答結果を取りまとめたものです。

ユニット型特別養護老人ホームは、ホテルコストを入居者が負担しますが、居住性を追求すれば利用者負担の増額につながり、事業性を追求すれば個別的なケアの実現が難しくなります。居住性と事業性の両方のバランスを見ながら在宅に近い環境で、入居者一人ひとりの個性や生活リズムを尊重すると同時に他者との人間関係をも築きながら日常生活を営めるように介護できることが重要です。

今回、開設してから1～2年の事業運営が軌道に乗り始めるまでの状況がどのように推移しているのか、また、ハード・ソフトの両面での有用な点やここは見直したほうが良い点等の意見を取りまとめており、施設整備を検討される際の参考に役立てていただければ幸いです。

また、今回の実態調査にあたり、アンケートの協力、実地調査やヒヤリングにご協力頂いた各位に厚く御礼申し上げます。

2013年3月

独立行政法人 福祉医療機構
福祉貸付部

ユニット型特養の標準モデル

区分	平均値	中央値
建築関係		
1人あたり延床面積	48.0㎡	48.3㎡
1人あたり建築単価	1,032.1万円	1,038.9万円
㎡あたり建築単価	21.0万円	21.6万円
(坪あたり建築単価)	69.1万円	71.2万円
1人あたり借入単価	824.9万円	845.5万円
運営関係		
特養の稼働推移		
1か月	61.2%	64.8%
3か月	82.8%	86.2%
6か月	92.5%	95.0%
9か月	96.2%	97.0%
1年	97.3%	98.0%
1年～2年以内	98.2%	100.0%
ショート稼働推移		
1か月	39.2%	36.7%
3か月	54.8%	52.1%
6か月	64.5%	65.8%
9か月	70.6%	75.0%
1年	73.6%	80.0%
1年～2年以内	77.5%	80.0%
デイサービスの稼働推移		
1か月	31.2%	26.7%
3か月	39.6%	36.0%
6か月	49.0%	46.7%
9か月	55.9%	56.7%
1年	62.7%	60.0%
1年～2年以内	68.5%	70.0%
1人あたり経営資金単価	89.0万円	86.0万円
第4段階以上の割合		
特養	25.9%	23.7%
ショート	51.2%	57.1%
ホテルコスト(1日あたり)		
特養	2,344円	2,000円
ショート	2,224円	1,985円
要介護度		
特養	3.6	3.6
ショート	3.1	3.1
デイサービス	2.2	2.1
人材関係		
介護職員の配置割合		
介護職員(3年経験未満)	38.3%	—
介護職員(3年経験以上)	36.8%	—
介護職員(パート常勤換算)	15.7%	—
看護職員(常勤換算)	9.2%	—
配置基準	1.8:1	1.8:1

平均値:母数の全ての値を平らにしたときの値を示す。

中央値:母数を一列に並べて上(下)から数えて真ん中の順位になる値を示す。

目次

第1章 実態調査の背景と目的

- 1. 実態調査の背景と目的 1
- 2. 調査結果の報告の手順 1

第2章 施設整備の概要（指標編）

- 1. 施設に関わる各種指標
 - ①定員分布 2
 - ②ユニット施設機能別面積 3
 - ③1人あたり延床面積 3
 - ④1人あたり建築単価 3
 - ⑤m²、坪あたり建築単価 4
 - ⑥1人あたり借入単価 4
 - ⑦1人あたり経営資金単価（見込み/実績） 5
 - ⑧資金計画の構成割合 5
- 2. 稼働状況
 - ①各時点の稼働状況（施設別一時点別） 6
 - ②稼働分布状況 6
 - ・特養ユニット一時点別 6
 - ・ショート一時点別 6
 - ・デイサービス一時点別 6
 - ③平均要介護度 7
 - ④第4段階以上の平均割合と1日あたり平均ホテルコスト 7
- 3. 職員の状況
 - ①介護職員の配置割合 7
 - ②平均配置基準 7
 - ③募集開始時期 8
 - ④主な募集方法 8
 - ⑤選考開始時期 8
 - ⑥充足時期 9
 - ⑦本俸 9

第3章 施設整備の概要（アンケート編）

- 1. ハード面に関すること
 - ①建築単価の適正について 10
 - ②設備、構造面で配慮したこと 11
 - ③他施設を参考にしたこと 11

④処遇上、有効だったこと	12
⑤処遇上、不必要だったこと	12
⑥入所者にとって有効だったこと	13
⑦地域交流スペースの設置状況等	14
⑧行政指導等で整備したこと	14
⑨居室内トイレについて	15
⑩居室外トイレについて	15
⑪その他アピールポイント	16

2. ソフト面に関すること

①職員配置の考え方とその理由	17
②食事提供方法について	17
③衛生管理体制について	18
④入浴利用について	19
⑤既に従来型特養の運営を行い、新たにユニット型特養を整備して 処遇上で変化した点について	19

3. その他

①施設のアピールポイント	20
②職員のモチベーションを上げる為に実践していること	20
③協力病院との契約事項	21
④個室面積の広さについて	21

第1章 実態調査の背景と目的

1. 実態調査の背景と目的

ユニット型特別養護老人ホームについては、平成15年度に創設され、各自治体が地域の実情に応じて整備を進めている中で、当機構においても支援しているところであります。

当機構の資金は、融資を通じて介護基盤の整備が推進されることとともに事業者が提供する利用者サービスの質的な向上を図ることを目的とし、施設整備にあたっては、計画の融資相談を充実させ社会福祉法人が安定的に経営され、長期に亘り利用者サービスが確保できるよう多面的に支援を行っております。

今回の調査では、当機構の資金をご利用いただき施設を開設された社会福祉法人を対象に、ユニット型特別養護老人ホームの状況や、実際に建ち上げに携わった経験から得た貴重なご意見を参考に今後、当機構の資金がより一層利用者サービスの質の向上に貢献できるよう改善していくことを目的としております。

2. 調査結果報告の手順

実態調査は、平成21年度に当機構の融資制度を利用した特養ユニット施設の整備概要、稼働状況、職員の状況、ハード面、ソフト面について等、あらゆる面から調査を実施し、とりまとめました。

なお、平成21年度に当機構の融資制度を利用した特養ユニット施設数155件中80件の回答をいただきましたので、その内容を取りまとめております。

2章 施設整備の概要（指標編）

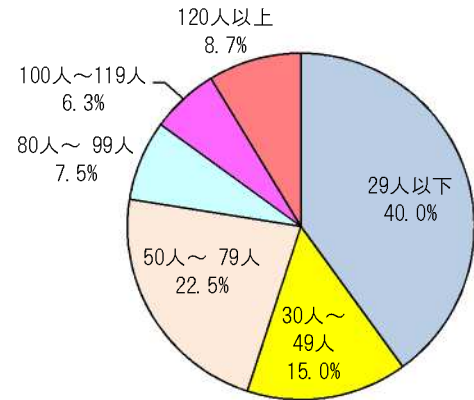
分析に用いたデータは、80件です。

1. 施設に関わる各種指標

①定員分布

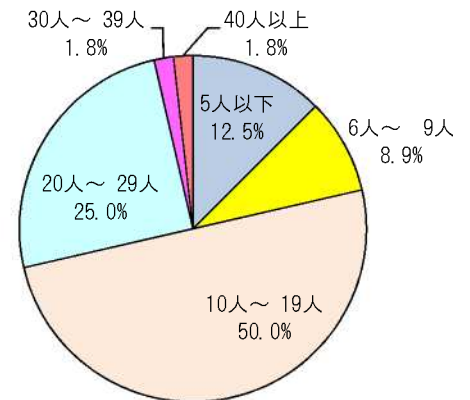
特養ユニット

	施設数	割合
29人以下	32件	40.0%
30人～49人	12件	15.0%
50人～79人	18件	22.5%
80人～99人	6件	7.5%
100人～119人	5件	6.3%
120人以上	7件	8.7%
計	80件	100.0%



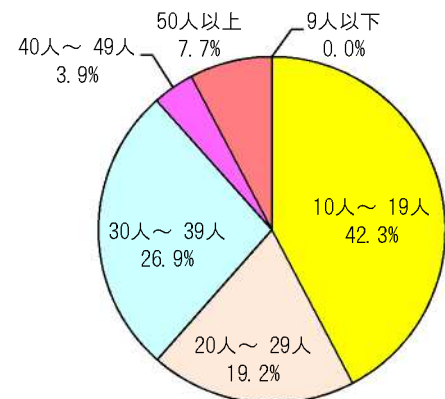
併設ショート

	施設数	割合
5人以下	7件	12.5%
6人～9人	5件	8.9%
10人～19人	28件	50.0%
20人～29人	14件	25.0%
30人～39人	1件	1.8%
40人以上	1件	1.8%
計	56件	100.0%



併設デイサービス

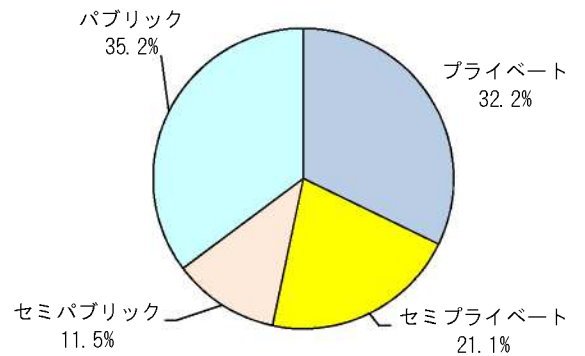
	施設数	割合
9人以下	0件	0.0%
10人～19人	11件	42.3%
20人～29人	5件	19.2%
30人～39人	7件	26.9%
40人～49人	1件	3.9%
50人以上	2件	7.7%
計	26件	100.0%



②ユニット施設機能別面積

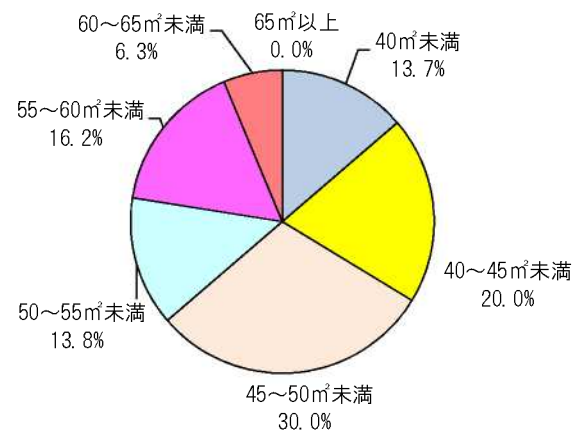
※併設がある場合は、面積按分により特養ユニットのみの面積から割合を算出

ユニット施設機能	割合
プライベート	32.2%
セミプライベート	21.1%
セミパブリック	11.5%
パブリック	35.2%
	100.0%



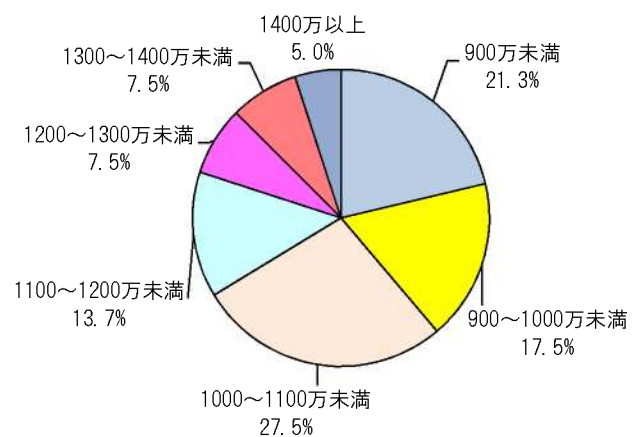
③1人あたり延床面積

	施設数	割合
40㎡未満	11件	13.7%
40～45㎡未満	16件	20.0%
45～50㎡未満	24件	30.0%
50～55㎡未満	11件	13.8%
55～60㎡未満	13件	16.2%
60～65㎡未満	5件	6.3%
65㎡以上	0件	0.0%
計	80件	100.0%
平均値	48.0㎡	
中央値	48.3㎡	



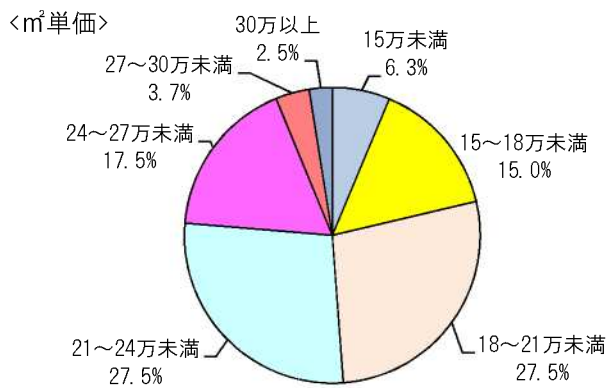
④1人あたり建築単価

	施設数	割合
900万未満	17件	21.3%
900～1000万未満	14件	17.5%
1000～1100万未満	22件	27.5%
1100～1200万未満	11件	13.7%
1200～1300万未満	6件	7.5%
1300～1400万未満	6件	7.5%
1400万以上	4件	5.0%
計	80件	100.0%
平均値	1,032.1万円	
中央値	1,038.9万円	



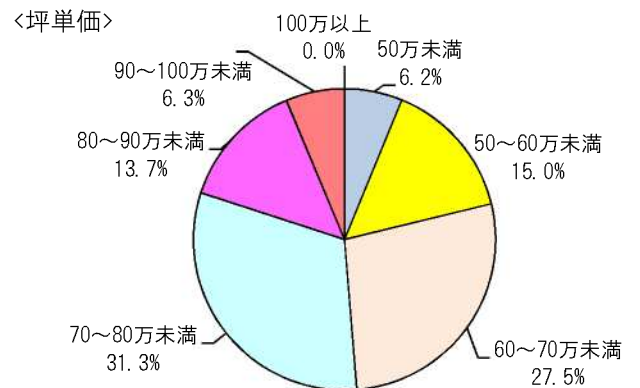
⑤㎡あたり建築単価

15万未満	5件	6.3%
15～18万未満	12件	15.0%
18～21万未満	22件	27.5%
21～24万未満	22件	27.5%
24～27万未満	14件	17.5%
27～30万未満	3件	3.7%
30万以上	2件	2.5%
計	80件	100.0%
平均値	21.0万円	
中央値	21.6万円	



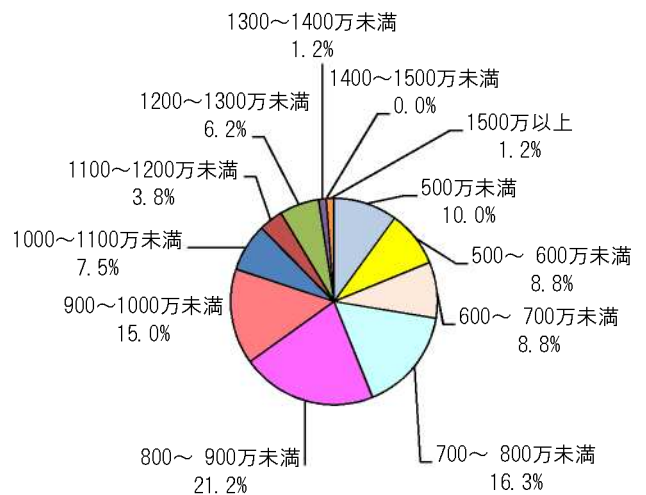
・坪あたり建築単価

50万未満	5件	6.2%
50～60万未満	12件	15.0%
60～70万未満	22件	27.5%
70～80万未満	25件	31.3%
80～90万未満	11件	13.7%
90～100万未満	5件	6.3%
100万以上	0件	0.0%
計	80件	100.0%
平均値	69.2万円	
中央値	71.2万円	



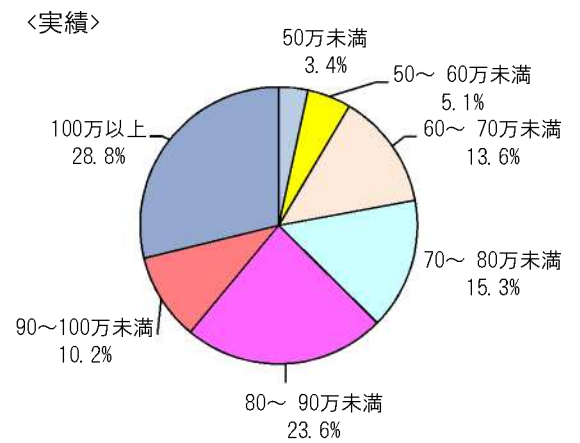
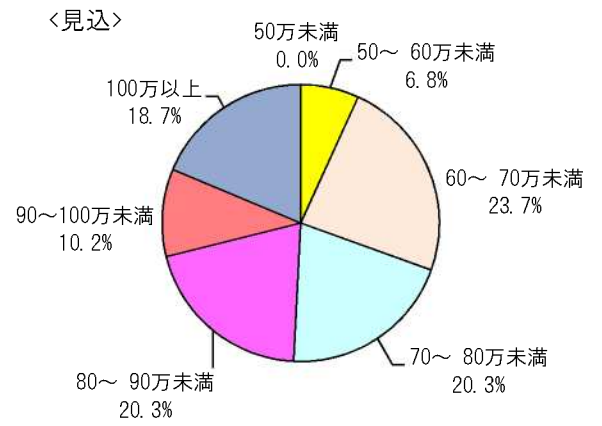
⑥1人あたり借入単価

	施設数	割合
500万未満	8件	10.0%
500～600万未満	7件	8.8%
600～700万未満	7件	8.8%
700～800万未満	13件	16.3%
800～900万未満	17件	21.2%
900～1000万未満	12件	15.0%
1000～1100万未満	6件	7.5%
1100～1200万未満	3件	3.8%
1200～1300万未満	5件	6.2%
1300～1400万未満	1件	1.2%
1400～1500万未満	0件	0.0%
1500万以上	1件	1.2%
計	80件	100.0%
平均値	824.9万円	
中央値	845.5万円	



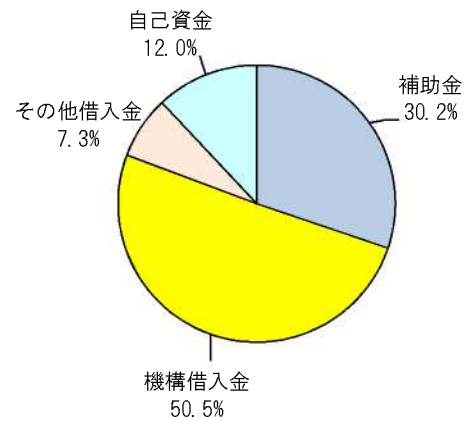
⑦ 1人あたり経営資金単価

	見込み	実績
50万未満	0.0%	3.4%
50～60万未満	6.8%	5.1%
60～70万未満	23.7%	13.6%
70～80万未満	20.3%	15.3%
80～90万未満	20.3%	23.6%
90～100万未満	10.2%	10.2%
100万以上	18.7%	28.8%
計	100.0%	100.0%
平均値	82万円	89万円
中央値	79万円	86万円



⑧ 資金計画の構成割合

資金計画内訳	割合
補助金	30.2%
機構借入金	50.5%
その他借入金	7.3%
自己資金	12.0%
	100.0%



③平均要介護度

	特養ユニット	ショート	デイサービス
平均要介護度	3.6	3.1	2.2
(中央値)	3.6	3.1	2.1
(最大値)	4.6	3.8	2.7
(最小値)	2.6	2.2	1.5

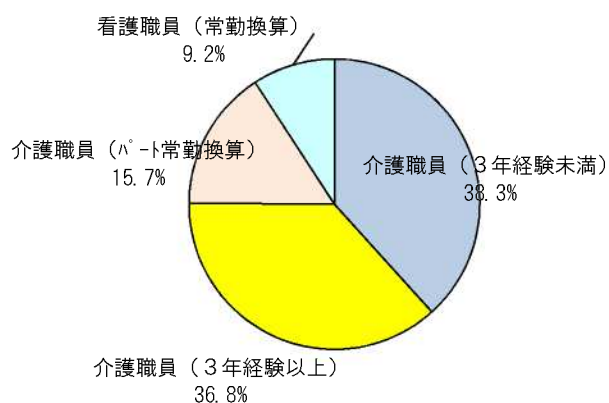
④第4段階以上の平均割合と1日あたり平均ホテルコスト

	特養ユニット	ショート
第4段階以上	25.9%	51.2%
(中央値)	23.7%	55.4%
(最大値)	100.0%	85.7%
(最小値)	2.0%	9.0%
ホテルコスト	2,344円	2,224円
(中央値)	2,000円	1,985円
(最大値)	4,860円	4,210円
(最小値)	1,970円	1,350円

3. 職員の状況

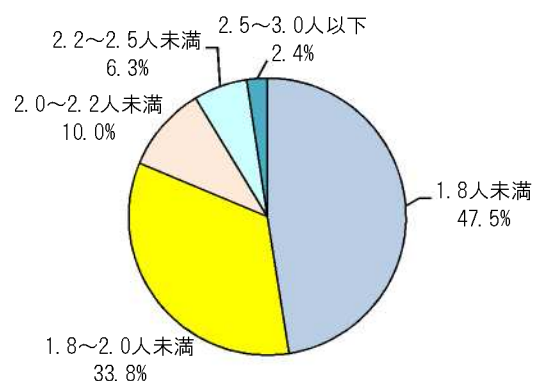
①介護職員の配置割合

	割合
介護職員（3年経験未満）	38.3%
介護職員（3年経験以上）	36.8%
介護職員（パート常勤換算）	15.7%
看護職員（常勤換算）	9.2%
	100.0%



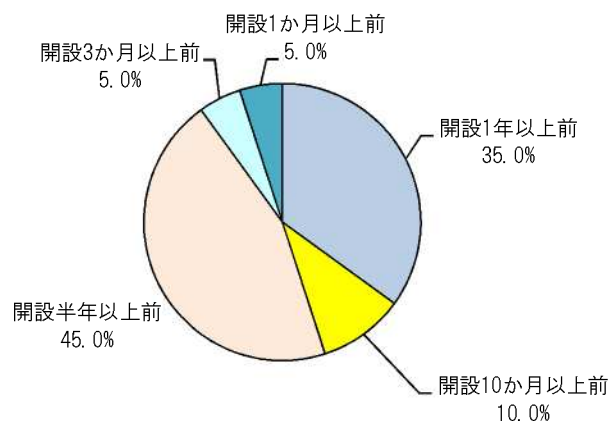
②平均配置基準

	件数	割合
1.8人未満	38件	47.5%
1.8～2.0人未満	27件	33.8%
2.0～2.2人未満	8件	10.0%
2.2～2.5人未満	5件	6.3%
2.5～3.0人以下	2件	2.4%
計	80件	100.0%
平均配置割合		1.80 : 1
中央値		1.80 : 1



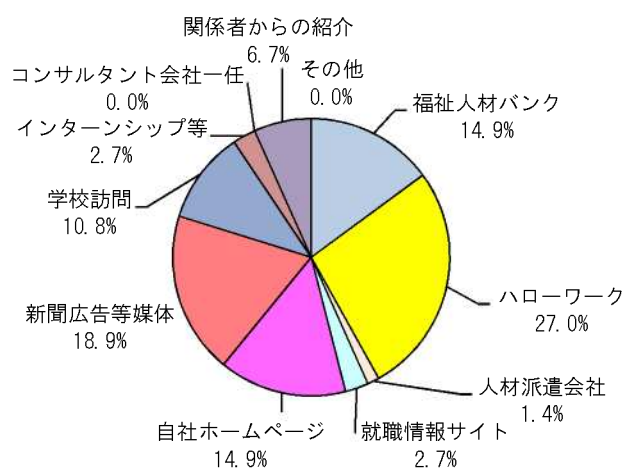
③募集開始時期

	割合
開設1年以上前	35.0%
開設10か月以上前	10.0%
開設半年以上前	45.0%
開設3か月以上前	5.0%
開設1か月以上前	5.0%
計	100.0%



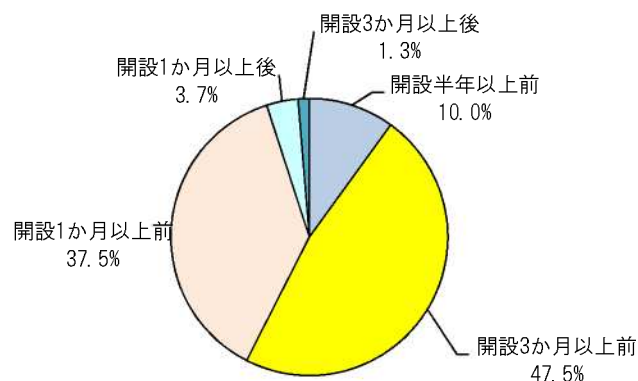
④主な募集方法 (複数回答あり)

	件数	割合
福祉人材バンク	28件	14.9%
ハローワーク	52件	27.0%
人材派遣会社	3件	1.4%
就職情報サイト	5件	2.7%
自社ホームページ	28件	14.9%
新聞広告等媒体	36件	18.9%
学校訪問	21件	10.8%
インターンシップ等	5件	2.7%
コンサルタント会社一任	0件	0.0%
関係者からの紹介	13件	6.7%
その他	0件	0.0%
計	191件	100.0%



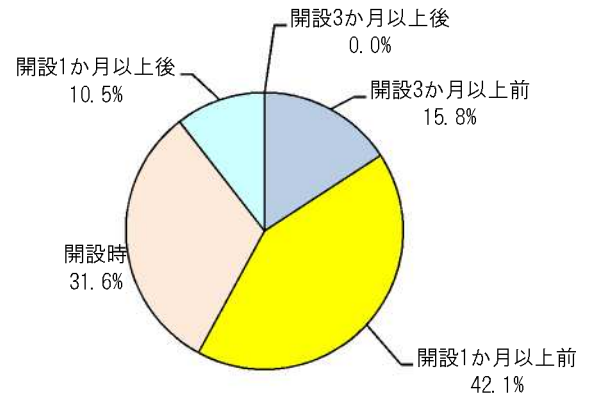
⑤選考開始時期

	割合
開設半年以上前	10.0%
開設3か月以上前	47.5%
開設1か月以上前	37.5%
開設1か月以上後	3.7%
開設3か月以上後	1.3%
計	100.0%



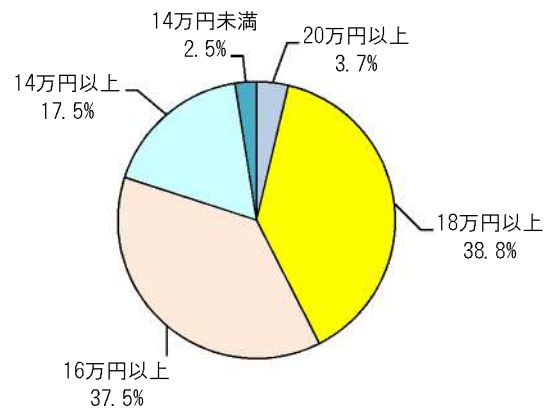
⑥充足時期

	割合
開設 3 か月以上前	15.8%
開設 1 か月以上前	42.1%
開設時	31.6%
開設 1 か月以上後	10.5%
開設 3 か月以上後	0.0%
計	100.0%



⑦本俸

	割合
20 万円以上	3.7%
18 万円以上	38.8%
16 万円以上	37.5%
14 万円以上	17.5%
14 万円未満	2.5%
計	100.0%



第3章 施設整備の概要（アンケート編）

分析に用いたデータは、80件（回答数には複数回答を含む）です。

1. ハード面に関すること

①建築単価の適正について（回答数 58件）

	件数	理由（同様意見は集約）
適正と認識	38件	<ul style="list-style-type: none">○資材価格を注視しながら設計するよう指示したことで、目標価格に近づけることができた。(5件)○フロアを偶数のユニット（2ユニット又は4ユニット）で構成し、動線を短くすることで延床面積を抑制した。(22件)○材料費を抑えた部分もあるが、工期短縮による建築コストの圧縮も行った。(4件)○複雑な設計をせず、各階とも同じ箇所にユニット、浴室、共同スペースを配置した。(7件)
高いと認識	6件	<ul style="list-style-type: none">○1ユニットを独立で構成したため、動線が長くなり床面積が増えた。(3件)○傾斜地の活用であり、建築単価としては高かった。(1件)○生コン単価が、周辺圏域と比較し、非常に高価だった。(1件)○延床面積の抑制に努めたが、資材価格が高い時期であったため建築コストがかかった。(1件)
安いと認識	14件	<ul style="list-style-type: none">○キュービクル、SP用発電機を屋上等外部に出し、機械室等利用者の生活に直接関係部分をコンパクトに抑えることで床面積を抑制した。(3件)○居室、利用者トイレ以外のスペースを必要最低限とし贅沢な空間を無くして建築コストを抑えた。(8件)○建物の外観にこだわらず、形状もスクエアにして左右で同じ造りにし、建築単価を抑えた。(3件)

②設備、構造面で配慮したこと（回答数 34 件）

○余分な面積を極力抑え、天井を低くし冷暖房効率を良くした。(3 件)
○全館にオゾン脱臭装置を設置しているので、特養独特のにおいがしない。(4 件)
○広い会議室を多目的室に利用することにより行事等にも対応できた。(10 件)
○既存施設と同様に全て個室が外部に面するように配置し、採光・換気・保健衛生等に配慮している。(4 件)
○建築コストを下げるため、施設長室・会議室・職員出入口等は極力なくした。(9 件)
○国道に面しており、騒音対策として全室窓を騒音仕様にし、入居者が快適な生活ができるよう配慮した。(3 件)
○入居者の関係性や身体状況に応じてアレンジできるよう、リビング照明を可動式にしたり、リビングに隣接する和室の畳を上げ下げ式にするようにした。(2 件)
○背中合わせの2つのユニット間の壁を、火災や災害時の避難経路の複数化を図ることを第一に考え、緊急時可動式とした。(2 件)
○「住居侵入犯が多い」という情報があったため、1階居室にはブロック塀（道路側に植栽）・建物外周には防犯カメラを設置した。(1 件)
○厨房スペースを小さく抑えるために、クックチル方式を導入した。その分で、喫茶カウンターを設けたり、パブリックスペースを広く確保することができた。(3 件)
○床も木造としたことで転倒等による事故の重篤化を防ぐことができる。(2 件)

③他施設を参考にしたこと（回答数 55 件）

○横長の敷地形状に合わせ、ウッドデッキ・ベランダを配置した。(3 件)
○フローリングの下にクッション材を敷き転倒事故の防止を行った。(7 件)
○2階から屋上までの吹き抜けを造ることで各階に採光を取ることができた。(24 件)
○ユニット内にモノが散乱しないように倉庫を増やした。(2 件)
○介護するうえで出来る限り死角がないよう配慮した。(5 件)
○バルコニーを設置することにより、気分転換を行えるようにした。(2 件)
○厨房でクックチルドシステムを導入。朝それぞれの時間に対応できるようにした。(2 件)
○他施設は、天井が低く圧迫感があったので、当施設は高めにし、圧迫感を無くした。(4 件)
○中庭を2箇所設け、複数種の草花や池を配置するなど季節を感じられるよう配慮した。(4 件)
○ユニットごとにリビングの床色を変え、ユニットごとの特徴をだすようにした。(1 件)
○他施設を参考に木造ツーバイフォー工法とした。木造のメリットは、材料費の抑制、工期短縮、転倒時リスクの軽減等多岐にわたる。(1 件)

④処遇上、有効だったこと（回答数 42 件）

○当法人として2施設目のため、前施設の反省と改良が十分になされている。(1件)
○各階にゆとりのあるスペースがあるため、各種イベント（ボランティア等）をフロアごとに行うことができる。(10件)
○各ユニットに個浴用の浴室と、ユニット専用の機械浴槽を設置したことにより、利用者の個々のペースで入浴介助ができています。(5件)
○家庭から使い慣れた家具等を設置した方が多くおり、環境の変化を一部緩和でき住み慣れた環境保持と精神の安定をはかれた。(9件)
○流し台がリビング、ダイニングの中央にあり、利用者に目が行き届きやすい。(3件)
○個室にベッドと備え付けのチェスト1台のみを設置。あとは広く使えるため、自分の家具を持ち込むことができた。(7件)
○居室全部にトイレが設備されているので、ご利用者の意思を尊重した排泄ケアが継続できる。(5件)
○ユニット毎にキッチンがあり、それぞれで洗い物ができるので、時間が有効に使えます。(利用者を持たせなくて良くなった。)(2件)

⑤処遇上、不必要だったこと（回答数 23 件）

○トイレの面積が狭く、プライバシーを守りづらい。(2件)
○ミニキッチンが狭くキッチン収納が十分に確保できなかった。(1件)
○トイレの電気をセンサーにしたため、長時間利用されていると切れて暗くなることがある。(1件)
○1か所の浴室に岩風呂と檜風呂を設置したが、岩風呂は、危なくて使用できない。(スペースを考えると個浴を2か所にすべきであった。)(1件)
○浴槽が施設的な浴槽で広く、水道費用もかさんでいる。(2件)
○加湿器等に使用するコンセントの位置が、必要と思われる場所がないケースが発生した。(2件)
○リビングに定員分の椅子を配置した。車椅子の方が多く、利用しない椅子がある。(1件)
○ユニットごとにトイレを4箇所設置したが、2箇所しか使用していないので、収納スペースにすれば良かった。(1件)
○棚がないので大きな荷物を置く場所が無く困っている。(1件)
○ブザーの位置が固定されているためベッドの位置が自由にできない。(1件)
○構造上、廊下が直線的であり途中にある談話コーナーが有効に使えない。(1件)
○ユニットに面したスタッフルームをかなり広くとったが、スタッフがその場所にて仕事する機会が増えてしまい、入所者との接点が減ってしまった。(1件)
○家族交流コーナーを設置しているが、家族は利用者の居室（個室）で面会をするため全く使用していない。(1件)
○不必要だったと思われるものはない。(7件)

⑥入所にとって有効だったこと（回答数 56 件）

○居室、トイレ等の開口部を広く取り（スライドドア）、入口の段差をなくしたことにより、車椅子でも利用者がスムーズに出入りできた。（8 件）
○居室トイレに棚を作ったため、おむつなどの収納が良く、プライバシーの尊重に繋がっている。（5 件）
○洗面設備を各居室とユニット毎に 1 ヶ所設置し、共同生活室使用時の利便性を考慮した。（2 件）
○大型加湿器の設置で、湿度が確保できており健康管理に役立っている。（1 件）
○ウッドデッキを活用し、合同行事や地域・他ユニット入居者との交流が図れている。（2 件）
○居室入口の扉の戻りを極限まで遅くした。車椅子でゆっくり動く方も扉に当たらず通過できた。（1 件）
○トイレの便器を斜めに設置したことにより、左右両方から介助することができた。（1 件）
○床暖房を設けた為、温度差がなく快適に入浴できた。（8 件）
○居室の電気をスイッチだけでなく、紐下げで操作できるようにしたことで、入居者の方が自分で自由に操作できた。（2 件）
○車椅子の通るスペースは平坦なフロアとした。（バリアフリー）（20 件）
○浴槽を木製にし、湯が入っていてもすべりにくく手すり代わりに縁がつかめるようにした。（1 件）
○全方角に居室（ユニット）が配置されているが、中庭や吹き抜けを囲むように配置したため、どの方角にある居室（ユニット）でも自然光が入り、明るさを保っている。（1 件）
○居室は、個別のエアコンを設置したため、入居者の状況に合わせて自由に室温管理ができる。（1 件）
○和風の要素を多く取り入れたことで、高齢者の方々にも落ち着いて過ごしていただくための一助になっている。（1 件）
○各ユニットのキッチン前に洗い場があり、利用者様が食器等を洗ったり、お手伝いをしていただきやすい位置に設置されている。（1 件）
○各居室の洗面台の高さを上下できることで、利用者の体型に合わせて自立できるようにした。（1 件）

⑦地域交流スペースの設置状況等

設置・未設置（回答数 67 件）
○設置（42 件）
○未設置（25 件）
使用頻度（回答数 42 件）
○月 1 回以上（10 件）
○月 1 回程度（11 件）
○年 6 回程度（7 件）
○年 3 回程度（9 件）
○ほとんど利用していない（5 件）
設置理由（回答数 42 件）
○地域住民との交流やクラブ活動等を行う場所を提供するため。（29 件）
○ボランティア団体等の受け入れのため。（5 件）
○公募要件（災害拠点等）であったため。（6 件）
○講習会等を開催するため。（2 件）

⑧行政指導等で整備したこと（回答数 13 件）

○近隣住民への配慮のため目隠しフェンスを取り付けた。（1 件）
○線路近くの設置のため、防音設備を重視した。（1 件）
○防水水槽の設置。（1 件）
○個浴の数を増やした。（1 件）
○談話コーナーを 4 つ設置した。（1 件）
○施設への高低差があるため、入口側面に車椅子用の昇降機を取り付けた。（1 件）
○各居室の窓から外のベランダに出ることができ、2 階の各部屋からは外階段、滑り台のどちらにも行くことができるようにした。（1 件）
○個浴については、フロア共用部ではなく各ユニットに設ける旨の指導により設置した。（1 件）
○県の指導により屋内階段横に附室を設置した。（1 件）
○市の指導により廊下の幅を基準以上の広さで整備した。（1 件）
○玄関入口までの点字ブロック。（1 件）
○消防署の指導により非常口以外に 2 階に滑り台を設置した。（1 件）
○隣地マンションとの調整を図るため、1 階を半地下とし地上階も 4 階までに制限された。（1 件）

⑨居室内トイレについて

設置・未設置（回答数 58 件）
○設置（39 件）
○未設置（19 件）
良かった点（回答数 39 件）
○個人のプライバシーが保護される。（20 件）
○自立が促しやすい。（13 件）
○利用者の生活のリズムに合わせることができる。（待ち時間がない）（3 件）
○衛生保持が容易。（感染症蔓延の危険性が少ない）（2 件）
○夜間にトイレ誘導を行う場合に近い。（1 件）
悪かった点（回答数 22 件：複数回答あり）
○排泄状況の確認が困難。（8 件）
○転倒等の事故が起こりやすい。（5 件）
○掃除等アフターケアに手がかかる。（4 件）
○使わない利用者トイレがある。（介護度が高くなるとトイレを使わない利用者がほとんどになった。）（3 件）
○各居室で排泄ケアをするため、人員効率面は悪くなっている。（個室トイレの清掃が行き届かずパートを雇用した。）（2 件）

⑩居室外トイレについて

設置・未設置（回答数 55 件）
○設置（52 件）
○未設置（3 件）
良かった点（回答数 58 件：複数回答あり）
○職員の目が届きやすく、転倒等のリスクが軽減される。（30 件）
○排泄状況（回数）を把握しやすい。（10 件）
○居室に戻らなくて良い。（近い場所で排泄できる。）（4 件）
○介助がしやすい。（4 件）
○トイレ内の面積を大きく取ることができ、車椅子での移動が容易。（3 件）
○各ユニットにトイレを3か所ずつ設置したことで、混雑がなくなった。（3 件）
○夜間帯も職員が誘導するため、目の届かない居室内での事故が抑制されている。（1 件）
○居室内の清潔が保てる。（1 件）
○ユニット内の移動距離が少ないため、職員の負担が軽減される。（1 件）
○居室に尿臭がなく、居室が広く使える。（1 件）

悪かった点（回答数 27 件:複数回答あり）
○一度に多くの利用者は使用できない。(9 件)
○プライバシーが保護されない。(8 件)
○清掃等に時間を要する。(2 件)
○夜間の使用時には、足音等の物音で睡眠が妨げられる。(2 件)
○夜間時間帯は職員数も少なくなるので、転倒事故の危険がある。(2 件)
○居室に戻らなくても良いが、排泄に間に合わないことがある。(1 件)
○共用のため、衛生面により注意が必要。(1 件)
○リビング前にもあるトイレは人の目が気になり利用を嫌がる人がいる。(1 件)
○リビングから近いため臭いが漏れやすい。(1 件)

⑩その他アピールポイント（回答数 53 件）

○庭園があり、利用者様・ご家族一緒に散歩ができ、庭の造りが庭園風の為、四季の季節が味わえる。(19 件)
○眺望がよく、季節の移り変わりを感じとれるような設計とした。(12 件)
○広めのスペースを確保し、圧迫感を感じないようにした。(6 件)
○トータルで介護職員をバックアップするためにユニット配置やユニット内のレイアウトを工夫した。(4 件)
○各ユニットに坪庭を設置し、植栽しているので常に緑が目に入り閉鎖感がない。(2 件)
○太陽光パネルを設置。環境に配慮している。(2 件)
○深夜電力を活用し、費用削減に取り組んでいる。(2 件)
○足湯専用の温泉を設置 (1 件)
○明るい褐色で統一された建物。南仏プロヴァンスのイメージで好評である。(1 件)
○駐車場を多く確保することで家族の来園が多くなった。(1 件)
○居室のドアの色やトイレの明かりの色等を工夫して利用者にわかりやすいようにしている。(1 件)
○標準より居室面積を広くとってある。天井が高いので圧迫感がない。(1 件)
○フロア中央に吹き抜けを造ることで採光もでき、各ユニットの死角も減らすことができた。(1 件)

2. ソフト面に関すること

①職員配置の考え方とその理由（回答数 80 件）

1 ユニットごとの固定配置（54 件）
○利用者との馴染みの関係を構築し、個別ケアに重点をおくため。（39 件）
○利用者の状況が継続して把握が可能。（15 件）
2 ユニットごとの固定配置（17 件）
○効率的な配置ができるため（13 件）
○夜勤体制は 2 ユニートを 1 名で対応するため、日中も同じ配置にしている。（4 件）
全体でのローテーション（5 件）
○入所者それぞれに特性があるので、職員全体でのローテーションの中で配置を考えている（5 件）
1 フロアごとの固定配置（4 件）
○職員の急な欠勤等に対応するため、様々な経験ができるようにしている。（4 件）

②食事提供方法について

食事提供の考え方（80 件）
○決められた時間帯の範囲で利用者の希望に応じて提供している。（衛生上の観点から概ね 2 時間程度）（56 件）
○利用者のリズムで自由に提供している。（13 件）
○施設の方で設定した時間に提供している。（11 件）
食材費の考え方（80 件）
○全体で管理（70 件）
○一部ユニットで管理（9 件：複数回答あり）
・主食（6 件）
・汁物（2 件）
・主菜（0 件）
・副菜（0 件）
・おやつ（2 件）
○ユニットごとで管理（1 件）
調理方法（80 件）
○全てユニットで調理（1 件）
○一部ユニットで調理（34 件：複数回答あり）
・主食（33 件）
・汁物（11 件）
・主菜（0 件）
・副菜（1 件）
・おやつ（6 件）
○施設全体で調理（18 件）
○外部委託（27 件）
クックチルシステム等の導入（80 件）
導入・未導入（回答数 80 件）

○導入 (14 件)
○未導入 (66 件)
使用頻度 (回答数 14 件)
○毎食 (10 件)
○一部 (4 件)
・朝食 (2 件)
・昼食 (2 件)
・夕食 (2 件)

③衛生管理体制について (回答数 52 件)

○衛生管理委員会を設置して定期的に会議を開催して衛生管理の徹底をはかっている。(12 件)
○マニュアルに沿って調理従事者の健康管理や調理作業時の衛生管理に努めている。(9 件)
○衛生管理マニュアルに基づき、毎月及び年 2 回の委員会を通じ食中毒、感染等について確認・協議している。(8 件)
○冷蔵庫の温度、ユニット内の湿度の調整 (加湿付空気洗浄機設置) (3 件)
○マニュアルを作成し、手洗いと消毒を徹底している。(3 件)
○常に委託業者との話し合いや確認・情報交換を行う。(3 件)
○オール電化とし、清掃しやすくした。(2 件)
○委託業者による抜き打ち調査の実施 (本社の専門員による) (2 件)
○殺菌消毒、害虫駆除週 2 回 (水・土) (2 件)
○厨房内とそのほかの部分では履物を履き替える。(2 件)
○研修として食中毒の予防について行っている。(2 件)
○栄養士の指導のもと行っている。(2 件)
○栄養士を中心とし、インフルエンザやノロウイルス等の感染について徹底している。(1 件)
○集団給食における県の指導に従っている。(1 件)

④入浴利用について

ユニットごとの個浴の設置と利用頻度 (80 件)
○設置 (62 件)
○未設置 (18 件)
○1人当たりの利用頻度 (回/週)・・・平均 2.1 回
○1日当たりの利用頻度 (人/日)・・・平均 9.5 人
特浴の設置と利用頻度 (80 件)
○設置 (68 件)
○未設置 (12 件)
○設置数・・・平均 1.6 箇所
○1人当たりの利用頻度 (回/週)・・・平均 1.7 回
○1日当たりの利用頻度 (人/日)・・・平均 6.3 人

⑤従来型特養の運営を行い、新たにユニット型特養を整備して処遇上で変化した点について (回答数 42 件)

○入居者と職員の関係が密接となり、コミュニケーションがとれ、仲間意識が増えたように思える。(24 件)
○職員が固定配置のため、入居者に合わせた援助が生活の中で自然に提供できている。(9 件)
○今まで気付くことがなかった、利用者の小さな変化に気付くことができるようになった。(3 件)
○入浴に関する動き (お迎えに行く、お風呂場で脱ぐ、お風呂に入る、お風呂からあがる、服を着る等) を1名の職員で行っていることで、利用者の皆様は大勢の職員が関与するより気持ちが楽であると言っている。(1 件)
○入居者の事を知ろうとする努力を介護職員が行うようになった。(1 件)
○まだ、十分な効果は現れていない。新規採用が増えたため、介護力が低下した。家族の反応は良好で、従来型の時よりも面会の回数・滞在時間が増えた。(1 件)
○時間にとらわれることなく、ゆっくりと入浴ケアができるようになった。(1 件)
○ゆったりとした時間が過ごせる。従来型より利用者の方の要望が多く聞かれる気がする。不思議と病気が悪化する率も低い気がする。(1 件)
○馴染みの関係を構築できる利点がある反面、ユニット内で職員、入所者との関係がスムーズにいかなくなり関係がこじれた場合、入所者は移動できないため職員が異動等を行うこととなるため、施設としてスタッフ教育を十分に行う必要がある。(1 件)

3. その他

①施設のアピールポイント（回答数 73 件）

○季節ごとに飾り付けを行い、季節を感じてもらえるようにしている。（観桜会、ドライブ、花火大会、彼岸、餅つき等）（29 件）
○気分転換・リフレッシュのための積極的な外出支援（地域行事への参加、美容室・買い物等）に取り組んでいる。（26 件）
○ご家族の面会時間を拡大した。（最終受付時間を 19 時までとし、19 時半まで面会可能とした。）（4 件）
○外観や内装など「特養」のイメージとはちょっと違う色使いをしている所。具体的にはダークカラーをベースにしており、落ち着いた雰囲気である、と入居者・ご家族様等から好評である。（3 件）
○地域との協働を理念に掲げている。施設祭での近隣小中学校との交流、防災訓練での地元消防団との合同訓練等を行う。職場体験等の受け入れも積極的に行っている。（2 件）
○24 時間シートを用いて、入居者の暮らしを把握し、個別の暮らしをサポートする。（施設の日課にならない。不要な介助、過剰な介助にならないため）（2 件）
○着工から現在に至るまで広報誌を作成し、地域の約 2,000 世帯に対して 16 回発行・投函しており、施設への理解が深まったり、利用が増えただけでなく、地域と施設の相互交流が定着化してきた。（1 件）
○どんなに重度になられても、トイレでの排泄を大事にしている。「あなた一人の為の一日」というテーマで、ご本人・ご家族の要望を聞き実践している。（1 件）
○家族宿泊室（トイレ・浴室・キッチン完備）があるので、遠方からの面会や体調不良時の付き添いのための宿泊が可能である。（1 件）
○ユニットの介護職員が入居者の自宅を訪問して、在宅時の生活の様子を家族に十分聞き取り施設でのケアに役立てている。（1 件）
○乳児院、児童家庭支援センターと同一建物内にあり、日々の関わりや行事の参加など、声が聞こえる、また遊んでいる様子も垣間見ることができることにより双方の生活のために良い状況が生まれる。（1 件）
○個々の生活を大切にし、自宅での生活により近く、質の高いケアとぬくもりの住環境で快適で健やかな生活環境を提供しています。（1 件）
○フローリング床晩某のリビングの大きな窓からは、自然の光が溢れ、お食事やテレビの会話も弾みます。自分だけの「個室」と、安心して基本的な生活を送る為の空間「ユニット」で、少人数の入居者や馴染みの職員と暮らせるようにしている。（1 件）

②職員のモチベーションを上げる為に実践していること（回答数 71 件）

○施設内での職員研修や施設外での研修参加を行っている。（26 件）
○人事考課による評価・実績に応じた登用や表彰（10 件）
○福利厚生充実。職員慰安旅行等を企画実施している。（7 件）
○資格取得補助（資格取得に要した費用の半額を補助）を利用し資格取得の勉強会を実施。（6 件）
○施設での職員の孤立を防ぐため、職員の面接、上司と職員の交流を常に行う。（4 件）

○運営をできる限り各ユニットに任せることで職員が仕事を楽しめるようにしています。(4件)
○職員の提案を大事にする。(業務改善提案書の提出)(4件)
○職員間での報告・連絡・相談を徹底することで情報の共有に努めている。(2件)
○ユニット費を活用し、園芸・おやつ作りなど楽しむことができ、意識向上につながっている。(1件)
○年度末(決算)手当の一律(正職員・臨時職員を問わず常勤職員)同額(平成23年度実績180,000円)支給。(1件)
○勤続5年、10年、15年、20年などの区切りに、海外研修を実施している。(1件)
○利用者やその家族からの喜びの声は、全職員に回覧する。(1件)
○職員間の協力体制と仕事の役割・意識を持てるよう精神面の支援を行っている。(1件)
○全国老人福祉施設協議会が推奨する「介護力向上」の取り組み(1件)
○職員誕生月に誕生日休暇の付与(1件)
○週休2日制の他に、毎月1回職員の望む日に休みがとれるようにシフトを組んでいる。(1件)

③協力病院との契約事項(回答数49件)

○入居者の病状の急変等緊急時の受け入れ(36件)
○定期的な健康診断の実施(9件)
○定期的な健康相談の実施(2件)
○入院が必要な入居者の優先受け入れ(1件)
○定期往診の実施(1件)

④個室面積(回答数54件)

○転倒の危険性を考えると、ベッドを最小限動かす等のスペースがあれば小さいスペース(10㎡)の方が良い。(2件)
○ベッド配置等を考えると、面積よりも居室の形状の方が影響は大きく、正方形に近い形状であれば、10㎡程度で十分だと思う。(1件)
○ベッドの設置・介護スペースの確保のほか家具の持ち込み等に対応する為には十分なスペース(13㎡)が必要である。(19件)
○ベッドの自由な配置や入居者の希望の家具の配置、車椅子の通行のほか、来客時の対応を考えるとこの程度の面積(14㎡程度)が必要である。(5件)
○入居者の身体状況に応じてベッドの配置を変更したり、家具等の持ち込み、車いすでの通行にはちょうど良い。(15㎡程度)(14件)
○これからは、昭和生まれの利用者が増えることもあり、多趣味で個別生活が多くなるという面と車椅子での生活を考えると最低16㎡~17㎡くらいは必要(13件)